

こすもす便り 第4号 (2017年2月)

◇保護者の皆さまへのお知らせ紙です◇

★私たちが大事にしていること (子どもを見る大人の視点)

私たち大人は、子どもを、その行動面の特性や独特の活動パターンなどから「こだわりの強い子」「自閉的傾向」といった範疇でとらえやすくなってしまふことがあります。でもその子にはその子にしかないものの見方、感受性、秩序感が存在しているのです。子ども期の人間の学び方は、「感覚に訴えて動く感動を伴った遊び」が中心になります。この学び方を土台に育てているということを忘れないようにしなければ、ともすると「大人」の見方でとらえてしまい、子どもたちの真の姿を見落とすことになってしまいます。だから大人の心には、ゆとり（遊び）が必要です。

★設定遊び (環境の整備)

子ども期には段階的な発達の課題があるといわれますが、子どもは繰り返すときに集中し、自由に選んだときに繰り返すのだとか。良い状態へと変わるのは、お説教や厳しいしつけの結果ではなく、自分が充実感を感じたり、自信を味わうまで活動をやり遂げた時に内面から変わるものです。自分で取りかかり、自分で納得して終わるという一連の活動を経過する度に落ち着いてくるのです。ただ自分で取りかかるためにはそれなりに環境を準備する必要があります。自分で選択するための情報と、楽しく集中できる環境です。それを踏まえて工作、運動、音楽、ゲーム、絵画、伝承遊びなどの「設定遊び」を計画しています。遊びの選択肢を広げる設定遊びは準備された環境になるわけですが、加えて職員や仲間集団といった人的環境によってはじめて魅力的で安定感のある環境を作り出すことができます。子どもたち一人一人にとって興味や注意が集中しやすいように、設定された活動であっても、自由な発想を大切にしています。

★土曜の外出から

1月7日は宮崎神宮に行ってきました。

みんな神妙に何をお願いしたのでしょうか。「みんなが元気でいますように」という小さな声が漏れてきました・・・(感動です)

おみくじは大吉？中吉？興味津々でお友達をのぞき込み、書いてあることを守ろうと言いながら大切に持ち帰った子どももいました。(見習います)

1月14日は宮崎美術館に足を運んでみました。子どもには面白さいのかどうか分からないなどと大人の勝手な想像は、見事に裏切られ、一つ一つの絵や写真を見ながら、お友達と小声で感想を話し合っている姿には「静かに見ようね」などという言葉は不要でした。

美術館では、周囲の雰囲気や職員の話し方などから、作品を見る姿勢を子どもなりに感じたのでしょうか。興味を抱いた作品はあったのでしょうか。今後のアートプロジェクトで子ども達の感性が醸し出す素敵なハーモニーが楽しみです。いつかクラシックコンサートにも出かけてみたいと思っています。

★1月の活動から

♪「アートプログラム A」 昨年作成したダンボールハウスは自分達で造ったこともあって、とても居心地が良かったらしく秘密基地にしたり、隠れ場にしたりと長い間大活躍しました。あちらこちらにある楽しかった遊びの爪痕で、ぼろぼろに・・・。「たくさん楽しませてもらってありがとう」お礼を言ってからみんなで解体しました。ダイナミックに体当たりしたり、身体にまとって名残を惜しんだりしながら見事に跡形もなくダンボールの山となりました。

今度はダンボールハウスの第2号を作成します。さっそく設計図を確認して、広げられた新しいダンボールの補強から始め、1枚では壁が弱いのでガムテープで2枚重ねる作業を行いました。